



☆ 森林の働きを知る ☆ 森林教室
第3回 森とのふれあい

私たちの身近にある森林が私たちの生活環境にどのような関わりを持っているかを、実際に体験して頂く「第3回 森とのふれあい」を知床森林センターの業務区域内で、10月17日に実施しました。参加者は北見市を中心に34名でした。

知床森林センターのある斜里町は潮害防備保安林で守られており、海岸から草地を経て森林に至る植生の変化と海風による枝張りの変形した森林帯などが容易に見られます。

内陸部の農耕地帯には幅72m(40間)の耕地防風保安林が、540m(300間)

間隔で東西南北に碁盤状にはしって、畑を風から守っております。イベント参加のみなさんはインストラクターの案内で実際に林の中に入り、造成中の人工林やほぼ成林した人工林を観察し、その労苦と年月の長さを知ったようです。そして天然林も立派に保安林の機能を果たし、景観や環境保全の一翼を担っていることを知りました。

午後からは知床五湖めぐりです。この五湖周辺はかつて昭和10年代に3回目の開拓農民が入り営農に従事しましたが昭和41年には全戸離村し、吹きさらしの廃屋だけがわずかに当時の面影をとどめているだけです。周りの森林も耕地を厳しい自然環境から守ることができなかったのでしょう。五湖の小径をめぐりながら湖水を囲む多様な森林相と秋の色彩に、自然界の巧みな配置の妙を見るおもしろいです。ここでも厚い森林が五湖を守り、五湖と共に生態系を現出しています。

今日のイベントは知床連山を背景に、網走市から斜里町にかけて広がる耕地を守る耕地防風保安林、斜里海岸の潮害防備保安林、景観を保持する知床五湖の森林を観察し、森林の効用と私たちとの関わりを知ってもらえたことと思います。遠近を問わず眺めるだけの森林から、一歩中に分け入り身を置いて、森林とふれあって頂けたと思います。

後日、初参加者の方から森を見る目が変わりましたという便りが届きうれしく思いました。



10月3日(日)斜里町の「知床産業まつり」が好天の下で行われました。知床森林センターでは今年も多彩なメニューを揃え、センターの業務をデモしました。とくに今年は19回を数える「森林レク・知床」の四季のイベントをパネル写真で展示、多くの人達が見詰めておりました。キノココーナーは説明員張り付けの人気でした。親子連れに人気のあった木工コーナーではベン立てを工作するドリルの音が響いていました。年輪あてクイズには多くの人参加し、目を凝らしながら年輪を数えていました。

子供丸太切り競技では子供たちは悪戦苦闘しましたが、優勝したのは今年も女の子、男の子はくやしがっていました。秋の暖かい一日会場はイベントや出店で賑わい、近隣町村の見物客も多く成功裡に終わった知床産業まつりでした。



★ 長いお眠り ★ 「国道334号線知床峠」「道道知床公園線」

夏期観光客で賑わった2本の道路が降雪期を迎え閉鎖されました。国道は10月25日から道道は11月4日から、いずれも斜里町の知床自然センター付近のゲートから奥地に向って来春まで長い眠りに就きました。

近辺の高山も雪化粧を始め、針葉樹と葉を落した裸の広葉樹が黒と褪褐色のモザイク模様を作っています。赤い実をたわわに付けたナナカマドが鮮やかな点景となっています。道路と共に知床の森林も深い眠りに入っていきます。



参加し易い曜日は? 「森林レク」「森林教室」

今秋九月以降、森林教室2件2日、森林レク1件2日の4日間実施しました。実施曜日は木金土日の各曜日ですが、初参加者が目立ちました。また初参加者で親子連れがあり、日曜には一家4人参加もありました。話をすると、一度は参加したかった日(土)だから参加できましたという返事で、やはり土日は参加し易い曜日ようです。初参加者・成年層・親子連れは今後も増やしたいところ、その兆しが見えつつある?と思うのは早計かもしれませんが、イベントの実施曜日と関連があるのは事実のようです。また参加の理由は各人様々ですが自発的参加である点は否めなく、森林への理解とイベント内容がより肯定的に終るような努力は今後も必要です。

